

支援対象国

ネパール連邦民主共和国



ネパールは、北は世界最高峰のヒマラヤ山脈から、南はインド国境沿いの平野を有しており、狭い国土の中に急峻な地形が凝縮されています。

これらの多様な地形が脆い地質からなることや、ネパールが典型的なモンスーン気候であることから、毎年6～9月の雨季には、全国で洪水、地滑り、土砂崩れ等の災害が起きています。また、国土全体がプレートの境目に位置することから、地震活動が活発な地域でもあり、2015年には大地震が発生。今後も全国的にさらなる地震の発生が危惧されています。

山や川の多いネパールでは、災害が起きても支援の手が届きにくいのが現状です。救助に頼らず、住民自らの力で災害に対処できるようになること、また被害を最小限にとどめることが「ネパール・コミュニティ防災事業」のゴールです。



僕の村は、ネパール最大級の川に面していて、洪水を防ぐ活動をしています！

チトワン郡

チトワン郡



グルミー郡

山岳地帯で、土砂崩れや地震の被害に備えています。

ヒマラヤの見える高地で、大雨が降ると土砂崩れが起こります。

これまでのご支援、誠にありがとうございます。
赤十字の活動は皆さまからのご寄付に支えられています。

さらなるご協力を募集しています！

海外たすけあいキャンペーン

世界の紛争や自然災害、飢餓、病気などで苦しんでいる人びとを支援するため、日赤とNHKは1983年から毎年「NHK海外たすけあい」募金キャンペーンを実施しています。

海外たすけあいキャンペーン
毎年12月1日～12月25日

海外救援金

大規模な紛争や災害により甚大な被害が発生したとき、犠牲者・被災者支援のため、救援金を募集しています。

海外たすけあいキャンペーン報告書、
海外救援金募集状況はこちら



活動資金

国際活動を含む日赤全体の活動を支える活動資金も募集しています。<http://www.jrc.or.jp/contribute/>

企業の方へ

ご希望の事業をご支援いただくことが可能です。
詳細は下記の連絡先までお問合せ下さい。

もっと知りたい方は・・・

赤十字国際ニュースにご登録ください

大きな紛争や災害から、スポットライトの当たらない人道危機まで、様々な対応を行う赤十字の活動を発信中！

【定期購読】

まぐまぐ登録画面よりメールアドレスをご登録ください。
毎週金曜日に赤十字国際ニュースをお届けします。



まぐまぐ登録画面
URL <http://goo.gl/UeRLTU>

検索

日赤 ネパール・コミュニティ防災

〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3

日本赤十字社 <http://www.jrc.or.jp>

TEL:03-3437-7089 (国際部 開発協力課) 2016年12月作成



人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

ネパール コミュニティ防災事業



コミュニティー防災とは？

住民が活動の中心となって身の周りのリスクを再認識し、解決策に取り組み、災害に対応できる知識と能力を身に付ける一連の活動を通して、住民の災害からの回復力（災害のインパクトを軽減し、適切に対応し、逆境から立ち上がる力）を向上させることを目標としています。

その1 住民が主役！

コミュニティーごとに災害対策委員会が作られ、活動の主体となります。活動を担う地域のボランティアも育成します。



その2 地域の危険を発見する



住民自身がリスクを発見し、リスクマップを作成。防災活動の計画を立てます。

その3 リスクを減らすための活動



防災



水・衛生



生計支援

防災訓練や啓発、洪水や土砂崩れを防ぐ堤を造るなど防災・減災活動を行います。

手洗いの啓発、貧困層へのトイレ・水設備支援などを通じて衛生環境を改善します。

貧困層へ生計支援を行います。

その4 ネパール赤十字社の組織強化

ネパール赤十字社の災害対応や防災事業を実施する能力を強化し、より多くのネパール国民に支援を届けます。

事業概要

■事業期間

フェーズ1 2012年8月～2015年12月 ※終了
フェーズ2 2016年4月～2019年12月 ※実施中

■事業地

ネパール連邦民主共和国
ウダヤプール郡、チトワン郡、グルミー郡

ネパール赤十字社担当者メッセージ

ネパール赤十字社のアンジャン・アチャルヤです。ネパール赤十字社で8年間働いていて、この事業を開始当初から担当しています。

世界最大の人道支援機関であること、最も弱い立場の人を支援するという使命に共感して赤十字に入りました。

赤十字に入ってから、いくつかの災害対応も経験しましたが、特に2015年に発生した大地震の救援活動の中で被災された方が心から安心した表情をしていたのが印象的で、その時は人道支援に関わる者として、脆弱な立場に置かれた人びとを支援する使命感を改めて感じましたね。

コミュニティー防災事業はフェーズ2に入ります。災害が発生した時、真っ先に人を助けることができるのは地域住民であることは私の経験から間違いなく、住民の災害対応能力を高めるこの事業は非常に重要です。この事業が一人でも多くの住民の命を守るよう、職員・ボランティア・住民が一丸となって取り組んでいきたいと思っています。



ネパールを災害から守るため・・・ サポーター大募集！

ネパールからの声（フェーズ1 成果）



堤防の最上段まで水が来るほどの大雨の時にも村を守れました。

チトワン郡では、石と網で造った堤防が毎年村を襲っていた洪水の発生を防ぎました。



「さっき、鶏を触ったから石けんで手を洗うんだよ」

トイレの使用や石けんでの手洗い、調理環境を衛生的に保つことなどの啓発を実施しています。すべてのコミュニティーで下痢にかかる人の数が減ったほか、食器を乾かす棚を作製したり、ごみ箱を村内に設置したりするなど、衛生に対する行動に変化が見られました。

のどに物を詰まらせた子どもに遭遇したとき、その子を助けることができました。災害が起きて住民のいのちを救いたいです。



救急法や災害救護など、住民の災害対応能力を高める研修を実施。救急法研修を受講したウダヤプール郡リンパタール村のウマ・カナルさんは実際に村人の命を救うことに成功しました。